



例年に比べ大雪に見まわれたこの冬の浪合パークでしたが、ようやく4月、阿智村では桜の開花や花桃などが咲き始め生き物の動きも活発に。芽吹き季節「春」がやってきます。標高1200mの浪合地域では樹齢100年以上を超える1本桜の御所桜を楽しむことができます。春霞や黄砂など透明度が下がることも多い季節ですが、春特有の広々とした星空を楽しみましょう。

**4月の夜空**

- 4日（金）二十節気「清明」
- 5日（土）●上弦
- 13日（日）●満月（今年最小の満月）
- 17日（木）春の土用の入り
- 20日（日）二十四節気「穀雨」
- 21日（月）●下弦
- 22日（火）水星が西方最大離角
- ★22時「4月こと座流星群」が極大※
- 27日（日）金星が最大光度（-4.8等）
- 28日（月）●新月

**4月オススメ星座**

- <春の星座>
- おおぐま、こぐま、うしかい、おとめ、しし、かに
  - からす、うみへび、りょうけん、かみのけ、かんむり
- <冬の星座>
- ぎょしゃ、ふたご、オリオン、おおいぬ、こいぬ

**今月見頃の天体**

- = 春の1等星 =
- アルクトゥールス（うしかい）、スピカ（おとめ）レグルス（しし）
- ★春の目印★「春の大曲線」「春の大三角」
- = 見ごろの惑星 =
- 火星、木星

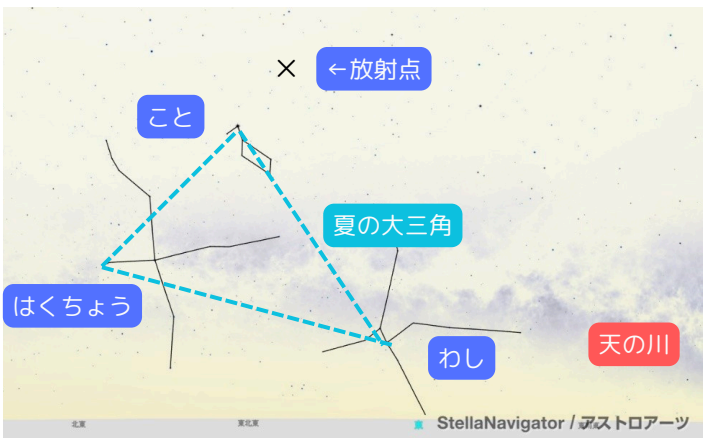


**今月の天体イベント①**

**4月22日「4月こと座流星群」が極大**

年間を通して見られる様々な流星群の活動もこの時期「休息期間」に入っていましたが、「4月こと座流星群」から今年の流星群のスタートとなります。

こと座は夏の星座ですから上がってくるのは22時頃。下図は23日午前0時の東天の様子です。22時ころから早朝にかけてが見頃となるでしょう。この流星群の飛来数は中規模で1時間に7～10ほどと予想され、未明にかけては明るい火球も期待されます。下弦過ぎの月が2時20分ころ上がってきますが、この時期の月は高度が低くそれほど問題にはならないでしょう。

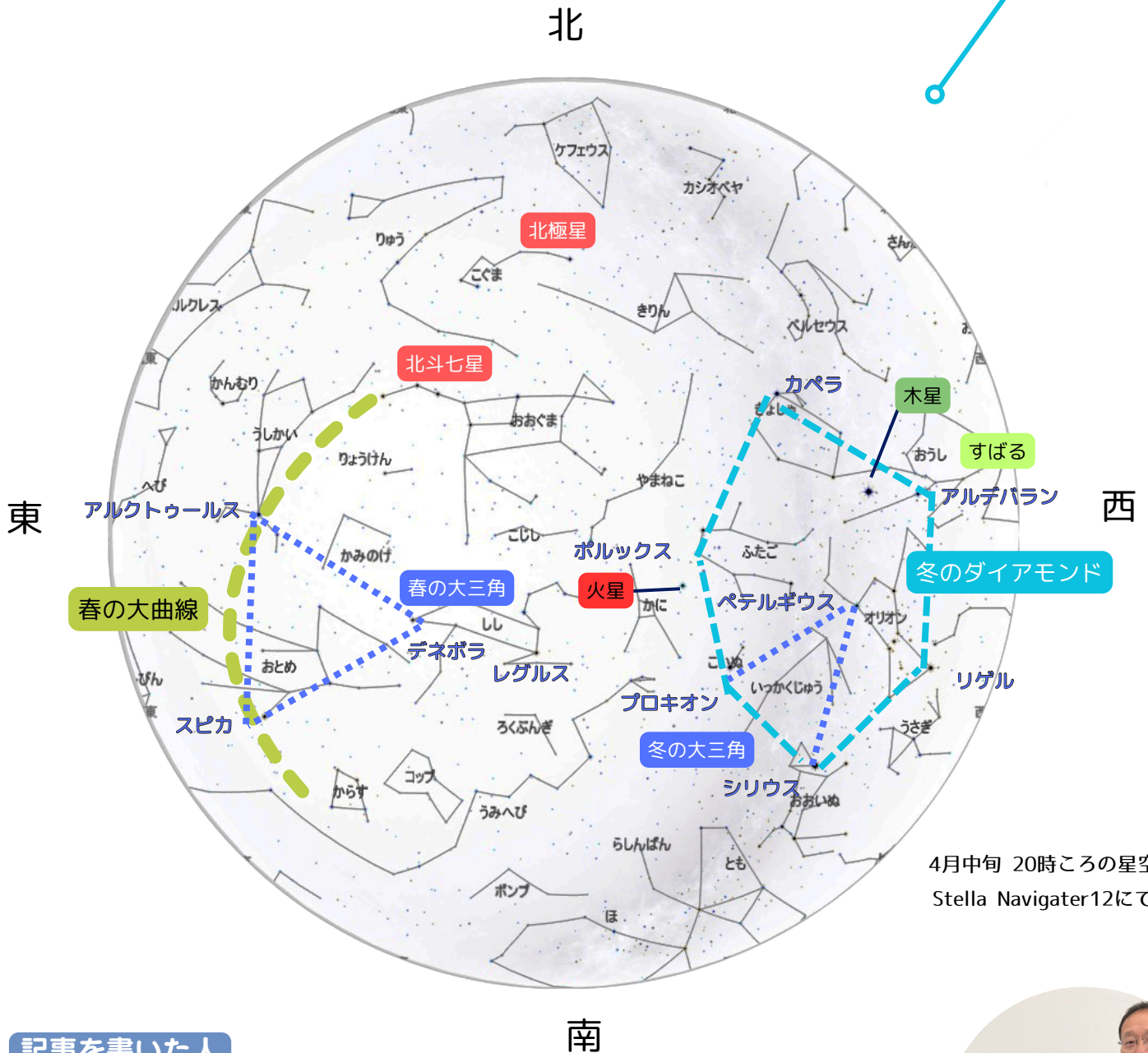


※「4月こと座流星群」の放射点（夏の大三角が目安）

## おおぐまとカラスが両端を持った春の大なわとび、「春の大曲線」

冬のきらびやかな星の広がりを見慣れてしまった目には、春の星空はちょっと寂しいな…なんだか物足りないな…と感じるかもしれませんが、西側の夜空には冬の星座も広がって見られ、春の星空の楽しみ方もご紹介します！

まずは北の空の「北斗七星」を見つけましょう。北斗七星は「柄の曲がったひしゃく」です。この曲がりそのまま大きく伸ばしていくと、東の空にオレンジ色に輝く1等星アルクトゥールス（うしかい座）にあたり、さらにその先、南寄りに輝く真珠星スピカ（おとめ座）にたどりつきます。この2個の1等星と北斗七星をつないだカーブを「春の大曲線」と呼びます。スピカの先にはからす座の四角形も見つかりますので、おおぐまとカラスが両端を持って春の大なわとびのようでもあります。天高く上がってきた、しし座のしっぽの2等星デネボラとアルクトゥールス、スピカをつなぐと、「春の大三角」も完成です。ぜひ、見上げてみて大きな縄跳びを見つけてみてください。



4月中旬 20時ころの星空  
Stella Navigator12にて作成

## 記事を書いた人

星空案内人認定制度により、2015年に「星空案内人」となる。飯田市美術博物館プラネタリウム解説員として5年、阿智村「天空の楽園 ヘブンスそのはら」にて星空ガイドを6年担当。わかりやすい解説、もっと星を見たくなる、知りたくなる星空ガイドを心がける。小さな天文学者の会会員。長野県プラネタリウム連絡協議会会員。



星空案内人 川手俊美